

第5次総合計画第2次見直しアンケートの事前ヒアリングから（記録）

1. 消費生活／池田さん（5/13月 15:00～15:30）

●アンケート項目（8-6）について：

・「消費者が自らを守ることを支援する行政の取組み」について聞く質問の内容についてはOKだが、「仕組み」についての評価は回答しにくいと思う。「行政の実際の支援の取組み」について聞く表現に変えたほうが良い。

→（8-6）「消費者詐欺等から消費者が自らを守ることを支援する行政の取組みについて」

◎関連事項：

A

- ・現状の施策は、相談機能（公聴機能）と広報機能の二本柱で行っている。
- ・消費者詐欺の手口は、行政側の専門的担当窓口である自分の経験上から言っても、非常に巧妙で高度だ。一般の消費者特に高齢者であれば引っかかりやすいことは理解できる。したがって、自分だけで対応しきれない場面があると思われるので、どこに気をつけたらよいか、具体的な注意点を中心に啓発活動をしている。しかし、これまでの情報から明らかになっているとはいえ具体的な事業社名を上げて注意を喚起することは行政としてはできないので、啓発上不十分になり勝ちだ。
- ・啓発内容におけるポイントをどのように伝えるかといった広報手段が、なかなか難しい。特に、一般消費者自身に届ける広報手段は、広報紙や注意喚起のシールなど実際にいろいろな試みをしているが、効果に結びついていないかどうか不安だ。現実問題として、高齢者個人や世帯に接する機会が多い行政サービス期間の担当者にレクチャーをする機会を増やし、消費者個人への啓発行動に反映していただいている。
- ・結局、個別具体の局面で消費者が自らを守ることを原則としつつも、その場合の行政の支援が有効に届くようにするためには、当面はなるべく相談機能を有効に利用してもらうよう呼びかけていくことを基本方針としており、そのことの周知をいかに図るかが主要課題である。
- ・全町的にこの施策課題については、評価が低く重要度も高く認識されているので影響度類型はIVになっており、深刻な課題である。特に、地区的にみると南西地区にこの傾向が顕著であることから、上記の施策対応について一層の具体的効果的な取組を検討する必要があるだろう。
- ・これらの観点から、アンケート結果の分析視点に留意したい。

2. 町民生活課／中村課長（5/13月 16:00～16:30）

●アンケート項目（4-2）について：

・「ごみの分別やリサイクル」について聞く質問の内容についてはOKだが、その「仕組み」についての評価は回答しにくいと思う。「ルールや方法、仕方」について聞く表現に変えたほうが良い。

→（4-2）「ごみの分別やリサイクルのルールや方法について」

◎関連事項：

・前回見直しの際の評価が低下傾向にあった背景として、RDF導入によって燃えるごみの分別が細分化されて事実上面倒になったことがあると考えられる。また、転入者が増えていることからニセコ町の分別に慣れない人の割合が高まっていることも想定される。人口が社会増となっていることから、ごみ

の総量も分別後の各ゴミの量も増え続けている。ただ、一人当たりのごみ排出量は、この2、3年ほどは大きな増減がなく比較的安定しているので、新住民への周知はある程度定着傾向にあると考えている。

・ゴミステーションでの分別状況については、塚越産業と常時情報交換をしていて、具合の悪いゴミだしが生ずると即連絡が入って対策を協議している。各ステーションごとの状況についてはデータ化しているので、特定のゴミステーションの問題把握もできている。しかし、住民よりも、通りすがりの移動者によるルール違反投棄と思われるケースでは対策に苦慮している事例もある。

・ホテルなど事業者のゴミについては、小規模のものは一般住民同様ゴミステーションで改修するが、大型ホテルなどは塚越産業との直の取引で処理している。料金は有料袋で処理するが、大量ゴミのケースでは直接重量計算で処理している事例もある。

3. 建設課／高瀬課長（5/14 火 13:30～14:00）

●アンケート項目（7-2）について：

・「歩いて楽しくなるような道づくり」について聞くことについては OK だが、その「歩いて楽しくなるような道」とはどのようなものなのか曖昧で、評価は回答しにくいと思う。「歩いて楽しくなるような道（花、緑、景観など）」と、例示しながら聞く表現に変えたほうが良い。

→ (7-2)「歩いて楽しくなるような道づくり（花、緑、野鳥、景観など）が行われているかについて」

●アンケート項目（7-1、7-3～7-7）について：

・そのまま OK

◎関連事項：

・「歩いて楽しくなるような道づくり」のハード整備は困難だが、住民参加によるソフトな環境・景観づくりを主として進める工夫は必要だ。また、既存の道を活かしたフットパスの整備をイメージして回答しても良い。

●アンケート項目（6-6）について：

・「中古住宅（空き家）」は貸手と借手がすぐに契約成立していて、その存在が地域的に問題となることはほとんどない。従って、ニセコ町ではアンケートで聞くべき課題とは言えない。むしろ、「空き家（廃屋）」について聞くほうが良いのではないか。廃屋は居住対象物件ではなく、地域景観や環境、安全などの観点から処分すべき物件として、地域の中でどのように評価されているのか把握する意味はあると思う。「廃屋」の場合、「活用」対象とは言えず「処理」対象となるだろうし、行政にとっても公共的観点から取り組む必要性のある課題である。

→ (6-6)「空き家（廃屋）による景観や環境、安全性への影響について」

●アンケート項目（6-1～6-5）について：

・そのまま OK だが、6-2、6-3 については、黒滝参事からもヒアリングし確認すること。

◎関連事項：

・民間の住宅状況については、行政は施策などで関わるのが難しい。しかし、周辺の環境や景観などに悪影響が及ぶような状況変化については、行政の責任領域として関わる接点づくりが求められる。

・廃屋については、町内の物件についてほぼ全て各概況を把握できている。しかし、だからといって、その処分などに関する有効な手法を見出しているわけではないので、毎年、先進地や参考事例に関する視察研究を行っている。

4. 建設課／黒滝参事（5/15 水 10:00～11:00）

●アンケート項目（6-2、6-3）について：

- ・そのまま OK

◎関連事項：

・長寿化政策（6-2）は、継続的に推進している住宅政策であり、メンテナンスや修復の規模も様々だが、施工コストは人件費等の影響で上昇傾向にある。

・ミスマッチ政策（6-3）は、これまでその方法論をめぐって内部検討を進めてきたが、今回（H29年度）初めて予算がついたので、今後は具体的に動き出すだろう。特に、高齢者の転居が主な内容だが、高齢者の見守りを兼ねた若い世帯の居住をエリア内に組み合わせるなど、住宅ミスマッチの解消に当たっては、高齢者福祉と子育て支援を組み合わせたコミュニティ形成をテーマとして含んでいる。

B

・ニセコ町は人口増傾向の受け皿として民間の住宅建設が進んでいるが、家賃面で、高齢者はもちろん若い子育て世帯も入居が厳しく、その深刻さを増している。この家賃問題は行政課題としてはきわめて難しいものだが、町内の人口問題と子育て支援、就業機会拡大などを含む地域課題の観点から、行政にとって看過することのできない地域づくり全般に関わる大きな問題でもある。

・SDGs のモデル事業であるサステナブル住宅団地建設を一つの大きな政策軸とする一方で、幅広い住民層の居住環境を家計的にも受入可能なものにする公的な住宅政策も、極めて重要である。この政策的観点こそ、SDGs の精神の根幹に触れる重要な領域である。

※重要政策領域として特記してはどうか。SDGs との親和性の観点からも極めて重要な政策領域の一つである。

5. 保健福祉課／桜井課長（5/15 火 13:30～14:30）

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(9-1) 長く元気に暮らせるための健康づくりの取組みについて

(9-2) 健康的な食生活と、自分にあった運動について

(9-3) 健康診断の受診率を向上させる取組みについて

(10-3) 公共施設における段差や手すりなど使いにくい状態は解消されているか

(10-4) 災害や犯罪などから高齢者を守るために誰がどのように対応したらよいか周知されているか

(11-4) 子育ての悩みを一人で抱えずに相談や交流できる取組みについて

(11-5) 家庭において家族が協力し合う男女共同の取組みについて

(12-3) 障がい者が自立し充実した生活を送るための、相談・支援の取組について

(12-4) 障がい者が安全安心にらせる環境について

- ・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・高齢者や障がい者が災害や犯罪に巻き込まれて被害にあわないようにするため福祉の現場はどうあるべきかについて住民にアンケートを行うにあたっては、全町的な対応との関係をどのように質問したらよいのかなど、なかなか難しい。

C

・ユニセフの「子どもにやさしいまちづくり事業」(CFC/CFCI = Child Friendly Cities and Communities Initiative) は、子どもの権利条約を市区町村レベルで具現化する世界的な取組みであるが、日本ユニセフ協会は日本に於ける本事業の展開を進める上で、ニセコ町を含む5つの自治体において、ユニセフが提唱する「子どもにやさしいまち」の構成要素が、日本の自治体に於ける子ども施策にどの程度有益であるのか、2年間の予定で検証することになっている。(2018年～)

・ニセコ町では、「SDGs 未来都市構想」との関連性を強く意識する必要があることから、具体的な関連性を検討していかななくてはならない。CFCとSDGsと総合計画の関連性については整理していないが、必要なことだと思う。

6. 総務課／阿部課長 (5/15 水 15:00～15:30)

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(19-1) 住民に対して**役場職員は迅速で柔軟な対応ができていますか**

(19-4) 町の財政は**持続可能な運営がなされていますか**

(19-6) 町の**財政状況**から見て、**住民の受益は負担と見合っていますか**

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

D

・「住民に対する役場職員の対応について」設問を追加したい、という要望が阿部課長から出されたので、別個追加する方向で検討したが、(19-1)に含める方向で表現を修正した。これで良かったらどうか？

・「広域行政」についての評価を追加したい、という要望が阿部課長から出され、意見を交わした結果、「広域行政」に対する一般的な好感度(?)をより実態に即して評価してもらうため、広域行政を具体例を出しながら表現することが良い、例えば、(例:国民健康保険、介護保険など)とする方向で、(20-2)を修正することについて、企画環境課と調整することにした。

7. 商工観光課／佐々木主事 (5/16 木 10:00～11:00)

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(13-1) 農業など他産業と連携する観光産業**(土産品開発など)**が活性化しているか

(13-2) 魅力的なイベント等による新たな**観光の盛り上がり**が生まれているか

(13-3) **会議、視察、大会、展示会など観光を伴ったビジネスイベントの開催状況**はどうか

(13-7) **リゾート観光エリアが市街地商店街に及ぼす経済効果**はどうか

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・観光行政は住民にはなかなか見えない政策領域の一つと思われるので、アンケートの設問は難しい。
・個別の設問の直後に全体に関する設問があると、その直前の設問イメージに強く影響されるのではな

いか。個別設問の順序を変えることで、最後の全体設問の回答が変わるかもしれない。

・総合計画用のアンケートでは、観光行政の政策判断に必要な情報が拾いきれないので、観光振興計画策定の中で詳細なアンケートが必要だ。

8. 農業委員会／山口事務局長（5/16 木 14:00～15:00）

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

（14-3）担い手や後継者の育成などがなされているか

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・ニセコ町独自の事業である「農地流動化促進事業」は、農地の貸借金額の 20%を町が補助する制度であり、農地の流動化に寄与しているが、農地中間管理機構の仕組みは、借り手を見つけるのに困るケースの少ないニセコ町においてはメリットが認識されないため、利用実態に乏しい。

・ニセコ町では農地転用などは基本的に抑制され、農地としての貸借は借り手が多く貸し手の農地はすぐに権利移動する。

9. 教育委員会町民学習課／佐藤課長（5/17 金 13:30～）

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

（3-3）先人の優れた知恵や経験などの文化遺産を発掘・保全する活動について

（3-6）町民が文化活動を行う施設（町民センターなど）について

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・特になし

10. 教育委員会学校教育課／前原課長（5/17 金 15:00～15:30）

●アンケート項目について：

・要修正項目はない。

◎関連事項：

・2020 年度から新しい指導要領など学校教育の体制や環境が大きく変わっていくので、今回の見直しアンケートは新たな設問などは難しい時期だと考えている。これまでのこの 4 年間の学校教育についての住民評価を聞くアンケート、という位置づけのままが良い。その観点から、内容や表現について修正すべきところはない。

・コミュニティスクールの進め方について、ニセコ町らしい方法論や仕組みを考えたい。まだ（前原課

長の) 私案段階なので、この1年かけて試行錯誤も含め検討を深めていくつもり。(※お聞きした前原課長の私案は、非常に期待が持てる内容だった。折々に、意見交換したいと感じた)

11. 農政課／中川課長 (5/17 金 13:30～)

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(14-1) 地元住民消費者や他産業と連携する新たな農業の展開について

(14-2) 都市住民と農村との交流を深めるグリーンツーリズムの現状について

(14-3) 担い手や後継者、農業従事者などによる農業の持続性について

(14-6) 農地が有効に活用されるような貸し借りや売買などについて

(14-8) 農地の基盤整備は進んでいるか

(14-10) 生産性の高い足腰の強い農業が行われているかについて

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・農業については、農業関係者でなければ判断できないことが多く、一般住民にとっては回答が難しい。具体的な例示をしても理解が深まるとは一概に言えないことから、抽象的な質問に対して一般的にどのような受け止めているのかを把握することで地域における農業の意味合いを理解することにはどうか、との指摘が中川課長からなされた。納得できる指摘である。この観点から表現を一部修正した。

12. 上下水道課／石山課長 (5/20 月 11:00～11:30)

●アンケート項目について：

・関連する下記の項目はそのまま OK

(4-3)

(4-5)

◎関連事項：

・下水道施設の経年劣化部分の更新が今後も引き続き必要となるが、昨年度末に決定した水道料金値上げの合意形成過程において施設の修復など更新事業は承認を受けたと認識している。当面は住民の評価を仰ぐような新たな事態は生じていない。

13. 幼児センター／酒井センター長 (5/21 火 13:30～)

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(11-1) 幼児センター、子育て支援センターなどの取組みについて

→この項目を(11-6)の直前に移す

(11-4) 子育ての悩みを一人で抱えずに相談や交流できる取組みについて

(11-5) 家庭において家族が協力し合って子育てをしているかについて

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・最近の若い家族は、お父さんも送迎を担当するなど一緒に

子育てしている様子を目にする機会が増えたが、ここ数年くらいの傾向と思う。

E
・地域の高齢者にボランティアとして子育て支援の担い手として参加していただく取組を検討している。以前からのアイデアだが、コミュニティスクール（幼児センターから高校まで）の取組が始まってから準備を具体化してきた。しかし、声をかけても参加してくれる高齢者はまだ現れていない。

14. 商工観光課／佐々木主事（5/23 木 10:00～11:00）

●アンケート項目について：

・質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(16-2) 綺羅街道など市街地の商店街について

(16-3) 道の駅ビュープラザと周辺のショッピングエリアについて

(16-5) 生活に必要な商品やサービスが町内の商店で満たされているか

(16-6) 小規模であっても多様なビジネスが起業・創業されているか

・上記以外の項目はそのまま OK

◎関連事項：

・農商工連携については、なかなか進んでいない。

15. 企画環境課／山本課長（5/28 火 13:00～15:00）

●アンケート項目について：

・設問項目の表現がある程度曖昧になるのは、総合計画の守備範囲の広さゆえにやむをえない側面が強いということと、アンケートの集計結果を重回帰分析にかけて住民意識を構造的に把握することが可能なので、課題の絞込みを行う観点からはある程度曖昧な表現でも有意義な分析ができるということなどから、大きな問題はないのではないか。あまり具体的な表現を追加すると、その事例に誘導されて本来の分析目的にそぐわない結果になる恐れがあると思われるので、安易に具体的な例示は追加しないほうが良いと思う。

・ただ、「仕組み」など住民目線からイメージしにくい文脈の場合は、理解しやすいような表現に変えることは適切だと思う。質問の趣旨が伝わりやすく回答しやすいよう質問の表現を一部修正する方が良い項目とその修正案は、次のとおりである。

(4-1) 環境への配慮を評価する取組がなされているか

(5-1) 再生可能エネルギー（太陽光、水力）を自給する仕組みづくりについて

(5-3) 地域の実情に見合った省エネや多様な再生可能エネルギーの利用について

(20-3) 国際交流活動を支える取組みについて

・アンケート調査票の最後の自由記述欄に、ニセコ町の街づくり全般の中で特に気になっていることなどがあれば自由に記述していただく設問を追加することで、満足度調査の項目とは別の観点から住民の評価や指摘を受けることにする。

◎関連事項（事前ヒアリング全般に関して）：

・「ニセコ町環境モデル都市第二次アクションプラン」及び「ニセコ町 SDGs 未来都市計画」を総合計画にどのように反映させるのが良いかについて、検討を深める必要がある。

・「ニセコ町環境モデル都市第二次アクションプラン」については、事業レベルで補充する方向で総合計画に反映するのが良いのではないかと。

・「ニセコ町 SDGs 未来都市計画」は全体として「総合計画」と重なるので、新たに付け加える内容のものではないと考えられるが、どのように反映していくのが良いか、さらに検討していく。

たとえば、SDGs のターゲットと同一の内容を抱える総合計画の施策項目を重点施策に設定するなど。

・重回帰分析で導かれた重点指標（Ⅰ～Ⅳ）を活用した予算組みの方法を各現課に活用してもらえよう、周知を図りたい。

・事前ヒアリングの結果を反映した「アンケート調査票（素案）」を5月末までに作成し、6月早々に、事務局内部でその精査と修正等を加えて「アンケート調査票（原案）」を作成し、6月中旬に開催予定の第1回「ニセコ町総合計画見直し検討委員会」に提案してご意見をいただき、成案としたい。